

第2章 わかやまの生物



わかやまの名をもつ植物



和歌山県は、^{おんだん}温暖で雨量が多いために、植物がよく生育し、^こ緑濃い森林が広がっています。日本には約7,000種類の植物が知られ、そのうち約2,500種が和歌山県にあります。^{ひょうこう}標高が高い山にはブナやミズナラなどの落葉樹が広がり、海岸近くの森にはウバメガシやヤマモモなどの常緑樹が茂ります。また、温暖な^{この}気候を好むリュウビンタイという大型のシダ植物もみられます。

こうした野山にみられる植物には、和歌山の地名に^{ちな}因んで名前がつけられた植物や、その土地で生活する人たちの役に立っている植物がたくさんあります。

高野山の植物

高野山の人々は、^{むかし}昔から^{むだん}無断で切ってはいけない木を「^{こうやろくぼく}高野六木」と定め、大切に^{*1}してきました。コウヤマキはそのうちのひとつで、切らずに守られてきた森は、今では^{りっぽ}立派な^{じゅりん}純林になっています。コウヤマキの材木は水に強いのでお風呂を作る材料として使われます。また、枝は^{ほとけ}仏さまに^{そな}供えられます。

コウヤボウキは、高さ50～80cmの^{しょうてい}小低^{ぼく}木で、県内の明るい^{ぞうきばやし}雑木林などに^{ふつう}普通にみられます。秋になると^{えださき}枝先に花を咲かせ、冬には^{らくよう}落葉します。高野山の寺では、この木の枝を集めて、^{たば}束にしてほうきをつくりました。そこからコウヤボウキという名がつけられています。

高野山は^{しんこう}信仰の^{せいち}聖地であるとともに、野生植物の^{ほうこ}宝庫としても知られており、昔から多くの研究者が足を運び、植物の種類が調べられてきました。高野山で最初に発見された植物の中には、コウヤワラビ、コウヤカンアオイ、コウヤハリスゲなど、高野山にちなんだ名をもつ植物がたくさんあります。



コウヤマキ（高野町）



コウヤボウキ（和歌山市）

*1 高野山で昔から材木などに利用してきたスギ、ヒノキ、コウヤマキ、モミ、ツガ、アカマツの6種類の樹木。
*2 ある一種類の樹木だけが、ほかの種類よりも際立ってよく成長している林。

熊野の植物

紀伊半島の南部，県内のおもに東牟婁郡，西牟婁郡にあたる地域は，昔から「熊野」と呼ばれています。険しい山や切り立った谷が多く，そこには貴重な植物が生き残っています。

キイジョウロウホトトギスは，紀伊半島の植物で，ユリのなかまの多年草です。奥深い山の崖に垂れ下がり，秋に黄色い花を咲かせます。花の美しさから園芸用に採られてしまったり，生えていた崖が道路工事などでつぶされてしまうことが原因で，数が減っています。

熊野地方に生育する植物で，「紀伊・紀州・紀の国」の名がつけられた植物には，キイセンニンソウ，キイトラッキョウ，キノクニスズカケなどがあります。

他に，熊野の名がついた植物に，クマノミズキ，クマノギクがあります。



キイジョウロウホトトギス（那智勝浦町）



【紀州の植物研究家，小川由一先生】

1889（明治22）年，現在の岩出市に生まれた小川由一氏は，和歌山高等女学校，和歌山信愛女子短期大学において教壇に立つかわら，和歌山県内をくまなく歩いて植物採集に取り組みました。特に，高野山の植物について詳しく調査を行い，その成果は「高野山の植物」「紀伊高野山植物誌」といった名著にまとめられています。晩年には，伐採の危機にあった摩尼山天然林の保護を強く訴えました。

小川氏の業績を代表する植物に，カツラギスミレ (*Viola × ogawae*)，ヒノミサキギク (*Chrysanthemum × ogawae*)，キイシモツケ (*Spiraea nipponica* var. *ogawae*) があります。それぞれの和名に和歌山の地名が，学名に小川氏の名前が残されており，今もなお後進の人々に語り継がれています。



カツラギスミレ（田辺市龍神村）



ヒノミサキギク（美浜町）

* 1 摩尼山は，高野山奥の院を囲む高野三山のひとつ。